

うすまがわしゅうん
巴波川舟運



平柳河岸（「蔵の街とちぎと太平山」より）

巴波川舟運とは、現在の栃木
地域にあった^{とちぎがし}栃木河岸（上流
^{ひらやなぎがし}平柳河岸、^{かたやなぎがし}片柳河岸、^{かたやなぎがし}片柳河岸、^{かたやなぎがし}片柳河岸の三カ所をまとめて^{かたやなぎがし}片柳河岸といひます）から現在

の藤岡地域にあった^{へや}部屋・^{にっぱがし}新波河岸までの間を、^{べかぶね}部賀舟（^{つがぶね}都賀舟とも）という底の浅い小舟を利用して、荷物を輸送することをいひます。

栃木河岸で積み込まれた荷物は、^{たかせ}部屋、^{たかせ}新波河岸で大型の川舟（高瀬
^{ぶね}舟）に積み替えられて、^{おもいかわ}思川・^{わたらせがわ}渡良瀬川を経て^{とねがわ}利根川を通り、江



新波河岸（「のびゆく藤岡」より）

戸川を南に下り、^{ふなぼりがわ}船堀川・
^{おなきがわ}小名木川を^{すみだがわえん}通って、隅田川沿
^{がん}岸にある江戸の河岸に陸揚
げされました。

（「栃木市のあゆみ」栃木市教育委員会
から）